

≡  
Tama Art University Museum  
多摩美術大学附属美術館

〒192-03 東京都八王子市鎌水 2-1723 / Yarimizu2-1723,Hachioji-shi,Tokyo,JAPAN / Tel.0426-76-8611 FAX.0426-76-2935

報道関係資料 PRESS RELEASE

1996年11月

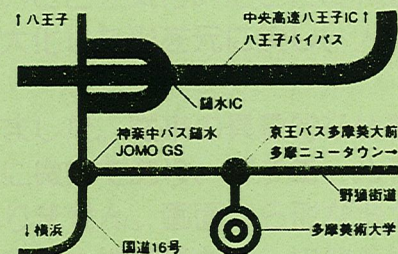
# 河野 扶 展

—色彩のハ—モニ—

EXHIBITION of TASUKU KAWANO

会 期 1996年11月25日(月)～12月21日(土)  
開館時間＝午前10時～午後5時  
休館日＝日曜日  
入 場 無 料

会 場 多摩美術大学附属美術館  
〒192-03 東京都八王子市鎌水 2-1723  
最寄り駅＝京王相模原線・JR横浜線 橋本駅  
橋本駅北口より京王バス(中央大学行)にて、  
多摩美大前下車



主 催 多摩美術大学附属美術館  
協 力 浅川画廊

《この展覧会に関するお問い合わせ先》

多摩美術大学附属美術館 学芸員 仙仁司または小林宏道  
TEL. 0426-76-8611 (代表) / FAX. 0426-76-2935



# Tama Art University Museum 多摩美術大学附属美術館

〒192-03 東京都八王子市鎌水 2-1723 / Yarimizu2-1723, Hachioji-shi, Tokyo, JAPAN / Tel.0426-76-8611 FAX.0426-76-2935

このたび多摩美術大学附属美術館では「河野 扶 展—色彩のハーモニー—」を開催いたします。

河野扶氏(1913~)は宮崎県高鍋市の出身で、旧制中学校(朝鮮京城府龍山中学、高鍋中学に在籍)時代から絵画に関心を持ち、一時、川端画学校に学びましたが、美術学校を志向することなく、京都の第三高等学校理科甲類に入学し、京都独立美術研究所において須田国太郎に師事して絵の勉強を続けました。東京帝国大学理学部に学んだ後は、主に数学の教師をしながら制作を続けてきました。独立美術協会会友を経て、現在は日本美術家連盟に所属しています。

宮崎県の高鍋中学在学中は左翼運動に関心を持ち、戦後には毎日新聞の論文募集に応じ、天皇制を論じて最優秀に選ばれるなど社会に対する鋭い眼を持ち、その批判眼は美術界にも向けられ、いつも独自の道を歩むことになりました。一時期、恩師須田国太郎の勧めもあって独立美術協会に出品し、会友に推挙されましたが、間もなく辞しています。

1960 年前後から従来の具象表現から抽象へ転じました。1970 年のパリ旅行を機に再び具象と抽象の間を往来することもありながら、思い切りよく抽象世界に移ったのは、それが本来求めていたものだからに違いありません。それは、また、20 世紀という時代が何千年間も続いた具象の時にピリオドを打ち、その魔術から開放され、神神の世界に疑問符を向け、神の万能を切り崩し、自己の存在をたずねるかのようになり、多くの思想、哲学を展開するに及んで、具象だけでは表現しきれないことを気付いたことに共通します。具象は抽象との出会いによって過大評価され、肥大化した形を元に戻し、人々は表現の個性と多様性を可能にしました。

河野扶氏は抽象との出会いによって、その多様性を選びました。従来の具象的な仕事と相当な攻めぎ合いがあったと思われませんが、元々、色感に微妙であり、マチエールを大切にしてきた作風が抽象を選んだとしても不思議ではありません。画面から形が消えることによって色感とマチエールは相互に反応し、東洋的な風土性を顕かにしつつあります。

河野扶氏は絵画を哲学の一手法として選びました。言葉で表現すれば難しくても説明のつかない世界、自己の存在、人間の存在というようなことを、独自の色彩感覚とマチエールのハーモニーによる東洋的な感性の形態を探究し続けています。

河野氏は 70 年に近い制作活動の大半を、美術界と距離を置いた立場を貫いてきたため、彼の作品に本格的に接する機会はほとんどありませんでしたが、このたび、河野氏自身の快諾により、近作 50 点を展示することとなりました。氏の表現世界に浸りながら、抽象表現の可能性を堪能していただければ幸いです。



Tama Art University Museum  
多摩美術大学附属美術館

〒192-03 東京都八王子市鍵水 2-1723 / Yarimizu2-1723,Hachioji-shi,Tokyo,JAPAN / Tel.0426-76-8611 FAX.0426-76-2935

開催要項

- 1) 名称 河野 扶一色彩のハーモニー
  
- 3) 会期 平成8年11月25日(月)～12月21日(土)  
午前10時～午後5時  
休館日＝日曜日
  
- 4) 会場 多摩美術大学附属美術館
  
- 5) 入場料 無 料
  
- 7) 主催 多摩美術大学附属美術館
  
- 8) 協力 浅川画廊

内容

油彩約 50 点

その他

会期中の関連事業

講演会 : 11月30日(土) 15:00～16:30 [講師＝河野 扶[美術家]]

会場＝多摩美術大学附属美術館 無料



# Tama Art University Museum 多摩美術大学附属美術館

〒192-03 東京都八王子市鍵水2-1723 / Yarimizu2-1723,Hachioji-shi,Tokyo,JAPAN / Tel.0426-76-8611 FAX.0426-76-2935

## 河野扶略歴

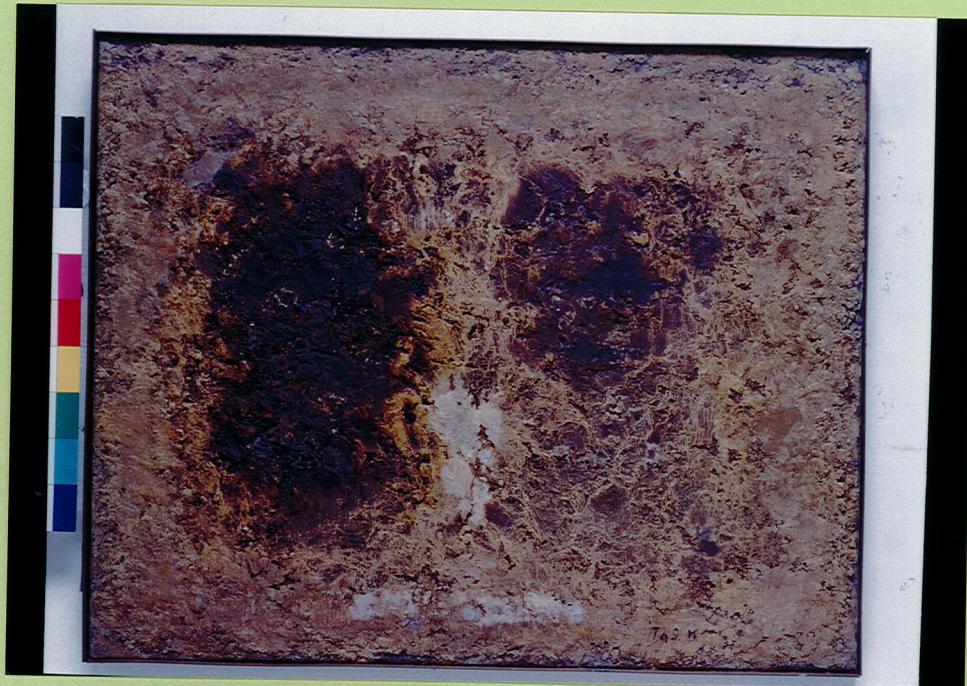
- 1913年 宮崎県に生まれる。
- 1925年 朝鮮京城籠山公立中学入学。絵画部に於いて遠田運雄の指導を受ける。  
この年鮮展に初入選。
- 1930年 宮崎県・高鍋中学校卒業。卒業と同時に、洋画家・有田四郎に師事。  
デッサン、油絵を学ぶ。
- 1931～33年 川端画学校に学ぶ。
- 1935年 京都三高理科甲類に入学。在学中、京都独立美術研究所に於いて須田国太郎の指導(人体デッサン)を受ける。
- 1941年 東京帝国大学理学部数学科卒業。三井生命入社。
- 1945年 教職に転じ、旧制専門学校、新制大学、都立高校等に於いて数学教員として勤務、かたわら制作を続ける。
- 1960～64年 独立展に出品、会友となる。
- 1965年 同展会友を辞して無所属となる。
- 1968年 日本美術家連盟会員となる。
- 1970年 教職を辞して渡欧。
- 1969～77年 巴里画廊、紀伊国屋画廊、現代画廊、アートプラザ、あかね画廊(以上東京)アテネ画廊、アテネ画廊アネックス等にて個展(浅川画廊主催)
- 1978年 浅川画廊主催「個展」(東京、甲府)
- 1979年 浅川画廊主催「個展」(宮崎)
- 1981年 浅川画廊主催「個展」(高知)  
以後、毎年浅川画廊主催個展(東京、甲府)
- 1984～86年 浅川画廊主催「個展」(東京・シロカネ画廊)
- 1987年 個展(甲府・浅川画廊)
- 1991年 浅川画廊主催「個展」(東京アートミュージアムギンザ)
- 1992年 個展(白州・浅川画廊)
- 1994年4月 浅川画廊主催「個展」(東京アートミュージアムギンザ)
- 1995年1月 すどう美術館企画展出品(銀座・ギャラリーしらの)
- 1996年5月 浅川画廊5周年企画個展(白州)
- 1996年10月 個展(町田・すどう美術館)
- 1996年11月 多摩美術大学附属美術館にて「河野扶展」開催。

浅川画廊主催「互人展」(1976年より毎年)創立会員  
宮崎県立総合博物館に作品を収蔵される。(1984年)  
現在無所展、日本美術家連盟会員。



Tama Art University Museum  
多摩美術大学附属美術館

〒192-03 東京都八王子市鍵水2-1723 / Yarimizu2-1723, Hachioji-shi, Tokyo, JAPAN / Tel.0426-76-8611 FAX.0426-76-2935

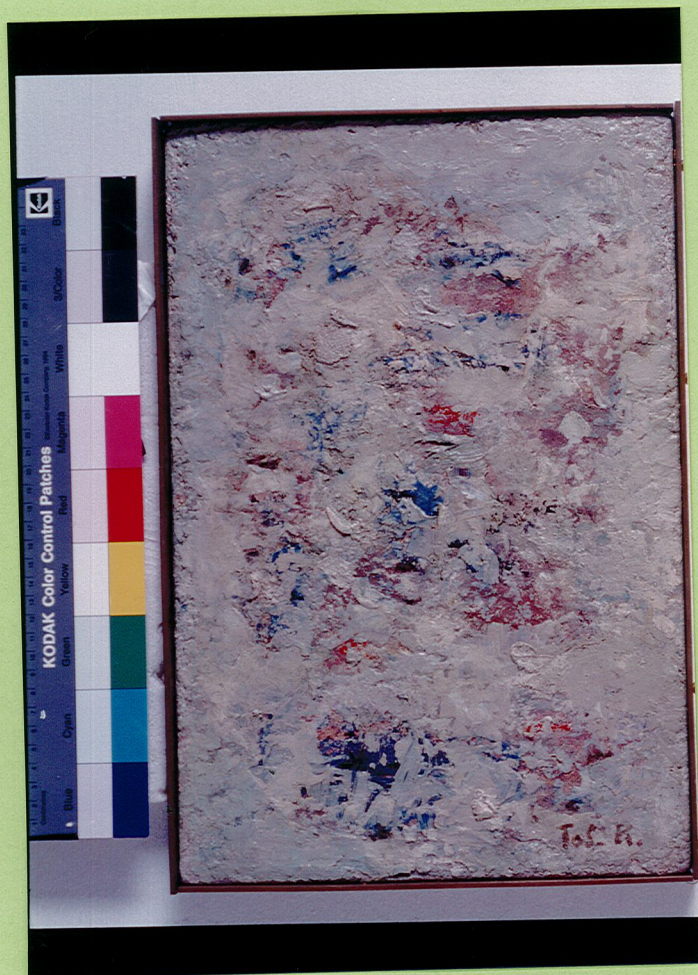


「二つの形(3)」 1993年 油彩 62.5×50.0cm

≡  
Tama Art University Museum  
多摩美術大学附属美術館

〒192-03 東京都八王子市鎌水 2-1723 / Yarimizu2-1723,Hachioji-shi,Tokyo,JAPAN / Tel.0426-76-8611 FAX.0426-76-2935

← 「崩れた形(1)」 1994年  
油彩 40.9×27.3cm



「ある風景」 1996年 →  
油彩 60.6×50.0cm